

## 【フロンティアスクール中間報告書】(中学校)

都道府県名	宮崎県
-------	-----

### ・学校の概要（平成 15 年 4 月現在）

串間市立 大東中学校						
	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	7	1 2
生徒数	4 9	4 5	4 4	1	1 3 9	

### ・実践研究の概要

#### 1．研究主題

<p>研究主題・副題</p> <p style="text-align: center;">「 生き生きと学習に取り組む生徒の育成 」</p> <p style="text-align: center;">～ 個に応じた指導の工夫と家庭・地域との連携を通して～</p> <p>研究仮説</p> <p>(1) 生徒一人一人の学習内容の理解度や学習に対する興味・関心を高めるための個に応じたきめ細かな指導を各教科等で実践すれば、生徒は学習に意欲的に取り組み、学力の向上が図られるであろう。</p> <p>(2) 学校が家庭・地域や小学校、高等学校と連携を深め、学力向上を目指した授業等を実践すれば、生徒は学習に意欲的に取り組み、学力向上が図られるであろう。</p>
--

#### 2．研究内容と方法

##### (1) 実施学年・教科

- ・ 少人数指導における 1, 2, 3 年生数学科, 英語科 (少人数加配を受けており, 当該教科に関する研究実績があるため)
- ・ 学習過程の工夫における全学年, 全教科等 (「確かな学力」を身に付けるための教科等のきめ細かな指導の工夫・改善)

##### (2) 年次計画

平成 14 年 度	<p>テーマ</p> <p style="text-align: center;">「 生き生きと学習に取り組む生徒の育成 」</p> <p style="text-align: center;">～ 個に応じた指導の工夫と家庭・地域との連携を通して～</p> <p>仮説</p> <p>(1) 生徒一人一人の学習内容の理解度や学習に対する興味・関心を高めるための個に応じたきめ細かな指導を各教科等で実践すれば、生徒は学習に意欲的に取り組み、学力の向上が図られるであろう。</p> <p>(2) 学校が家庭・地域や小学校、高等学校と連携を深め、学力向上を目指した授業等を実践すれば、生徒は学習に意欲的に取り組み、</p>
--------------------	--

学力向上が図られるであろう。

#### 研究内容・方法

##### 学習指導研究班

###### ア 学力観の共通理解

- 学力に関する職員研修

###### イ 学力テスト等の分析

- 標準学力テストの分析

###### ウ 学習過程の工夫

- 小テスト，繰り返し指導の工夫
- 少人数指導の基本的な考え方
- 問題解決的な学習の基本的な考え方
- 学習形態等の工夫の基本的な考え方
- 教材等の工夫

##### 地域連携研究班

###### ア PTA 学力向上委員会

- 家庭学習の充実を図る取組

###### イ 生徒学力向上委員会

- 基本的な学習習慣の定着を図る生徒活動

###### ウ 地域人材等の活用

- 総合的な学習の時間での活用

###### エ 小中高合同研究会

- 授業研究会や意見交換会

平成14年度は研究初年度として，指導体制の整備や研究の方向性等を整理しながら，特に少人数指導の工夫に関する検証授業を計画的に実施した。また，PTA との連携による取組の基盤固めができた。さらに，小学校，高等学校との合同研究会を年4回実施できた。

平成  
15  
年  
度

#### テーマ

「生き生きと学習に取り組む生徒の育成」

～個に応じた指導の工夫と家庭・地域との連携を通して～

#### 仮説

- (1) 生徒一人一人の学習内容の理解度や学習に対する興味・関心を高めるための個に応じたきめ細かな指導を各教科等で実践すれば，生徒は学習に意欲的に取り組み，学力の向上が図られるであろう。
- (2) 学校が家庭・地域や小学校，高等学校と連携を深め，学力向上を目指した授業等を実践すれば，生徒は学習に意欲的に取り組み，学力向上が図られるであろう。

研究内容・方法

学習指導研究班

ア 学力テスト等の分析

- N R T , C R T , 基礎学力調査の分析と指導の充実
- 定期テストの分析と指導の充実

イ 学習過程の工夫

- 小テスト, 繰り返し指導の充実
- 少人数指導の工夫・改善
- 問題解決的な学習の充実
- 学習形態等の工夫
- チャレンジカード(自作問題集)の作成
- 補充・発展的学習

地域連携研究班

ア 学校からの啓発活動

- ステップアップ通信の発行

イ PTA 学力向上委員会

- 家庭学習の充実を図る取組
- 参観日の参観率向上を図る取組

ウ 生徒学力向上委員会

- 基本的な学習習慣の定着を図る生徒活動及び集会の実施

エ 小中高連絡協議会(名称変更)

- 授業研究会や意見交換会

テーマ

「生き生きと学習に取り組む生徒の育成」

～個に応じた指導の工夫と家庭・地域との連携を通して～

仮説

- (1) 生徒一人一人の学習内容の理解度や学習に対する興味・関心を高めるための個に応じたきめ細かな指導を各教科等で実践すれば, 生徒は学習に意欲的に取り組み, 学力の向上が図られるであろう。
- (2) 学校が家庭・地域や小学校, 高等学校と連携を深め, 学力向上を目指した授業等を実践すれば, 生徒は学習に意欲的に取り組み, 学力向上が図られるであろう。

研究内容・方法

学習指導研究班

ア 学力テスト等の分析

- N R T , C R T , 基礎学力調査の分析と指導の充実
- 定期テストの分析と指導の充実

イ 学習過程の工夫

- 小テスト，繰り返し指導の充実
- 少人数指導の充実
- 問題解決的な学習の充実
- 学習形態等の工夫
- チャレンジカードの効果的な活用
- 補充・発展的学習

地域連携研究班

ア 学校からの啓発活動

- ステップアップ通信の発行

イ PTA 学力向上委員会

- 家庭学習の充実を図る取組
- 参観日の参観率向上を図る取組

ウ 生徒学力向上委員会

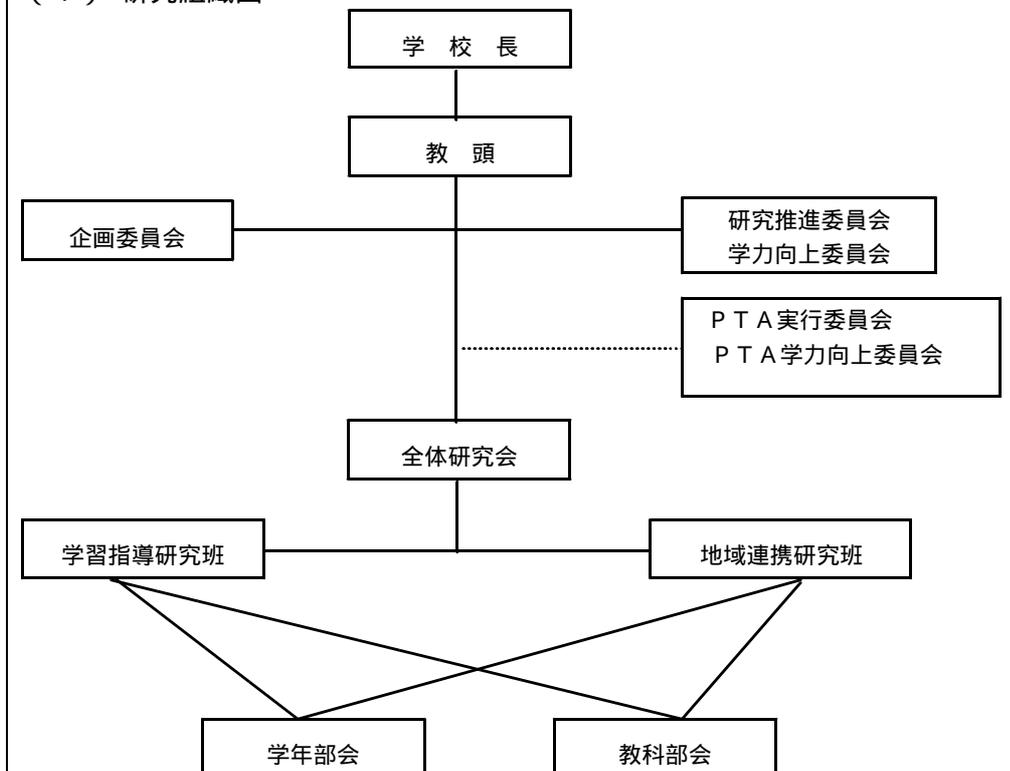
- 基本的な学習習慣の定着を図る生徒活動及び集会の実施

エ 小中高連携の活動

- 小中高の交流授業の実施
- 学習と生活面の連携についての実践研究
- 情報交換等

(3) 研究推進体制

(1) 研究組織図



- 企画委員会メンバー（校長，教頭，教務主任，研究主任，各部署長，各学年主任）
- 研究推進委員会メンバー（校長，教頭，教務主任，研究主任，各班班長）

(2) 研究の機会と運営

- (ア) 隔週水曜日月2回を原則として主題研究の研修日とし，必要に応じて研修の時間を設ける。
- (イ) 研究推進に当たっては，毎週実施する研究推進委員会で，基本構想の企画・立案と全体研究会や班別研究会の円滑な運営及び実施のための措置を講じ，計画的・系統的な研究の積み上げができるように配慮する。

(3) 各研究会の活動内容

- (ア) 研究推進委員会  
研究推進のための基本構想を企画し，各研究班との連絡・調整を図る。
- (イ) 全体研究会  
全職員の共通理解，共通実践を図り，研究に一貫性をもたせると同時に取組に対する職員間の連帯感を高める。
- (ウ) 班別研究会  
各班の研究内容に応じて研究計画を立て，実践し，評価を行い，そして次の計画を立案していくための母体となる。その成果は随時全体研究会に報告していく。
- (エ) 教科別研究会，学年研究会  
上記の(ア)(イ)(ウ)を受けて，実践の指導を行う母体となる。

・平成15年度の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- (1) 授業が変わってきた。
  - ・ 英語科，数学科の少人数の指導法が充実し，授業に積極的に取り組む生徒が多くなった。
  - ・ 英語科，数学科だけでなく他教科でもきめ細かな指導の観点を明確にした指導が展開されてきた。
- (2) 保護者の教育に対する意識の変容が見られた。
  - ・ 家庭での実践事項「チャレンジ6」の取組や保護者と教師の学習会「いもんつる」が充実し，徐々に参加率を上げている。
  - ・ 参観日の参観率が向上してきた。（平成13年度54%，平成14年度59%，平成15年度61%とわずかではあるが確実に向上している）
- (3) 生徒による活動が充実し，学習に対する意識が変わってきた。
  - ・ 生徒学力向上委員会が取り組んでいる基礎的・基本的な内容を問題とし

たミニテスト「チャレンジテスト」への取組が充実し、学級全体で学習に取り組む雰囲気を高めることができた。

- ・ 生徒の委員会活動の活発化によって、自立心、積極性が育ってきた。

(4) 学力の向上が図られつつある。

- ・ 県が実施している基礎学力調査の結果において本年度国語と英語が県平均を上回った。英語は3.2ポイント上回ることができ、少人数指導の長所が出てきている
- ・ 理科は昨年度より大幅に県平均に近づいた。各教科できめ細かな指導が充実しつつあると推察される。

(5) 小中高連絡協議会による近隣学校への啓発ができた。

- ・ 大東地区の小学校、南那珂地区の高等学校の職員との連絡協議会を通して、小中高の一貫指導の大切さを認識でき、連携が図られた。
- ・ 小・中TT授業など、授業研究を通して児童生徒の学習意欲を喚起することができた。

## 2. 今後の課題

(1) 少人数指導の更なる充実

- ・ コース内での習熟の差に応じた学習形態の工夫やワークシートの工夫など更に個に応じた指導となるよう工夫改善を進める。

(2) 各教科におけるきめ細かな指導の充実

- ・ 習熟度に応じた具体的な指導の目標値を設定した検証授業を計画的に推進する。
- ・ 学習指導過程におけるチャレンジカードの効果的な活用を図る。

(3) 基本的学習態度の指導の徹底

- ・ 授業態度 3 原則の徹底や発表の仕方、話し合いの仕方など学習活動を支える基盤としての指導を次年度は徹底していく。

(4) 学力検査等の分析結果に基づく指導の充実

- ・ 諸検査等のデータを客観的に分析し、習得されてない学習内容の指導を徹底し、個への対応を図る。

(5) 小中高連絡協議会の充実

- ・ 授業研究会を実施したが、連携の視点が不明瞭であるという反省を踏まえ、次年度は教科指導と学業指導の 2 つの視点を持って連携を計画的に進めていく。
- ・ 小中連携や中高連携としてのTT等の交流授業を実践研究する。

### 学力把握のための学校としての取組

- ・ NRT（標準学力テスト）を4月に実施し前年度との比較，分析を行っている。
- ・ CRT を2月に実施し，1年間の観点別学習状況の把握・分析を行う予定である。
- ・ 10月に2年生を対象とする基礎学力調査を実施し，年次ごとの比較，分析を行っている。
- ・ 各学期の定期テストの結果分析による教科ごとの傾向，生徒一人一人の学力の傾向を把握している。

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 本校 PTA を対象とした説明会の実施（4月の参観日の際に実施）
- ・ 学力向上フロンティアスクール地区連絡協議会への参加（年3回管内小中学校校長，PTA 会長が参加する地区連絡協議会で成果の普及を図っている。）
- ・ 公開授業の開催（昨年度は10月15日に本校にて実施，本校事務所管内の小校，中学校，高等学校，更に本校 PTA 及び地域の方々に案内状を配布し，約150名の参加を得た。）
- ・ 年次ごとの研究紀要の作成と近隣校への送付

次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること（複数チェック可）

【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校

【学校規模】       3学級以下       4～6学級  
 7～9学級       10～12学級  
 13～15学級       16学級以上

【指導体制】       少人数指導       T・Tによる指導  
 その他

【研究教科】       国語       社会       数学       理科  
 外国語       音楽       美術       技術・家庭  
 保健体育       その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無